

# 居宅訪問型児童発達支援におけるオンラインの取り組み

東部療育センター

## 1. はじめに

東部療育センター（以下、「当センター」）は、平成 23 年度開所から重症心身障がい児や、感染リスクにより通園が困難な子どもを対象とし、訪問保育を行っています（平成 30 年度以降は、居宅訪問型児童発達支援として対応）。

その中で「同学年や異年齢の子どもや保護者と交流したい」「通園の保育を経験したい」という保護者のご要望を受け、平成 24 年度から月 1 回、当センターの肢体不自由児通園部門への保育参加と、保護者同士や子ども同士の交流の場として『ぼかぼか』を開始しました。

令和 2 年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで実施した『ぼかぼか』の取り組みと、その成果を報告します。

## 2. オンライン保育の経緯と目的

表 1：『ぼかぼか』の実績数

(人)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
対象児	2	2	4	3	2	5	7	4	4	1	2
実績回数		6	6	7	3	1	10	9	4	3	6
参加延べ人数		9	7	10	3	1	14	10	4	3	12

感染症リスクが高い子どもと保護者の健康や安全面を考慮し、令和 2 年度当初は中止していましたが、居宅訪問型児童発達支援については、①本児の体調が良好であること、②保護者の希望があること、③主治医の許可があること、④訪問担当保育士の体調が良好であることを条件に、10 月以降に再開しました。

『ぼかぼか』については、オンラインでの『ぼかぼか』を年長児のみを対象として 12 月から試行し、令和 3 年度から本格的に実施しました。

## 3. 取り組み

〈オンライン交流〉 令和 2 年度 訪問児 1 名 通園年長児 9 名  
令和 3 年度 訪問児 2 名 通園年長児 5 名



### ① ICT 機器の接続や設定について

iPad を使用して Zoom で繋ぎ、訪問児宅に訪問担当保育士と iPad 等の機械操作をする職員が訪問しました。交流中の様子は、画面越しでも状況が鮮明に伝えられるように、子どもの動きに焦点をあて、ゆっくりと移動するなどの打ち合わせを行いました。通園児との交流と一緒に歌うときなどに時間のずれが生じ、音声聞き取りにくい場合は、ホスト以外はミュートにし、聞き取りにくさを改善しました。

### ② 安全性について

ベッド上や座位保持装置などの姿勢管理をするため、訪問児の健康状態や保育内容に応じて、理学療法士も同行しました。また、訪問する職員は、抗原定性検査で当日陰性であることを確認するようにしました。

### ③ 保育について

馴染みのある集まりの歌や名前呼び、歌紙芝居などを行いました。保育が一方向的にならないように、子どもの状況や気持ちを伝え合いました。保育内容は、オンラインで遊べるものや交流できるものに限られましたが、紙吹雪など、訪問児も通園児用と同様の保育教材とし、映像を通して同じ感覚を共有し、五感への刺激を促せるような内容にしました。